



東日本大震災 災害救援レポート 9



司令官より組合長に作業船の鍵が渡された



進水した船は、さっそく湾を一周

宮城県牡鹿郡女川町



障がい者支援施設「すずらんとかたつむり」へ、中華饅頭の蒸し器を贈る



完成した中学生が使用する仮設グラウンドのフェンス

岩手県陸前高田市



香港からの手編みのマフラーを贈呈
(左は香港のフォー大佐補)



厳しい寒さの中で準備された祝い膳弁当が配られた

岩手県大船渡市



今まで支援の入っていない仮設住宅地で炊き出しをし、日用品を提供



手作りの弁当が提供され、互いに紹介をし、親睦をはかる



パンジーが植えられたプランター



地域の人々と仮設住宅に住む人々との交流会をおこなう

12月1日、岩手県大船渡市にオープンした仮設店舗街「おおふなと夢商店街」(33店)、その式典の様子。救世軍は、商店を連結するウッドデッキや駐車場の地盤整備、そして看板や植栽、ベンチを提供した

八月には、新しいキャンティーンカーが納入された。十日には、二台のキャンティーンカーで宮城県牡鹿郡女川町の漁港の組合員とその家族(二百人)に対して牛井の給食をおこなった。続く二十五日には、女川漁港に作業船一隻が贈呈された(全部で三十隻提供の予定)。贈呈式には、同漁港の代表者そして関係者、救世軍側からも、司令官、そして資金提供をおこなった香港の救世軍の代表などが参加し、復興のための新しい一歩を共に喜ぶ時をもった。また、漁協の関係者に対して給食がおこなわれ、手作りのお祝い膳の弁当(673食)が配られた。

南三陸町・女川町・大船渡市では、仮設店舗街建設支援プロジェクトがアメリカの救世軍の支援によって進められている。

今後の支援としては、精神的・霊的ケアに関わるプロジェクトが検討されつつある。

震災後八カ月が過ぎ、被災地は、本格的な冬を迎えている。被災者の越冬対策が検討されている中、救世軍も、宮城県からの要請で、民間借り上げ住宅に居住している被災者の方々に対して暖房器具を贈る支援を進めている。

十月の終わりには、陸前高田市で給食活動が引き続きおこなわれた。今回は、地元の情報により、支援の入っていない仮設住宅地(矢作町・気仙町など)でも炊き出しをしまった。(合計豚丼98食、鮭定食96食。また、陸前高田市小友町柳沢地区地域センターでは、地域の人々と仮設住宅に住んでいる人々の交流を図る時がもたれた。救世軍が、プランター、土、冬に咲くパンジーの苗を提供し、プランターに苗を植える共同作業をし、お弁当を食べながら歓談の時を過ごしていただいた。十一月に入り、障がい者支援施設に、冬期の販売として用いる中華饅頭の蒸し器が提供された。中学校の仮設のグラウンドのフェンスの設置も完了した。

皆様のご支援、ご協力を
心から感謝申し上げます。

お問い合わせ、ご献金は……
救世軍本管 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17
<http://www.salvationarmy.or.jp> TEL 03 - 3237 - 0881